社会福祉法人三愛学園　広報誌

第１４１号

令和５年１月１０日発行

さんあい広報タスク

# 三愛学園

社会福祉法人　三愛学園

〒369-0212　埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605　　Fax 048-585-0562

Mail　san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL　san-ai-jidouyougo.org

HP はこちらから→

**児童養護施設**さんあい　　**一時保護所**オリーブ（男子・女子）　　**自立援助ホーム**三愛子ひつじ寮

## 愛 情 の こ ぼ れ

理事長兼施設長

髙瀬　一使徒

「子どもは親の愛情のこぼれで育つ」と言った方がいますが、名言だと思います。言い換えると〝こんなにも自分のことを大切にしてくれているのだ“という体験が子どもを成長させるのです。そしてそれは日々の生活の中で体験することが殆どです。特にお母さんのお腹の中に居るときから３歳までの体験は、その子の脳や情緒の成長に大きく影響を与えると言われています。つまり赤ちゃんが泣けば何よりも優先してミルクやオムツの対応をすること、具合が悪くなれば真っ先に熱を測り医者に連れてゆくこと、笑えば笑い返し、小さなことでもたくさん褒め、失敗しても怒らず忍耐強く待つことです。子どもは本能的にそのような親（養育者）の対応に愛情のこぼれを感じるのだと思います。私が小さかった時を思い起こしても、熱が出て苦しんでいる時、目を覚ますといつも傍に母がいておでこのタオルを変えてくれました。母はいつ寝るのだろうかと子ども心に不思議に思ったものです。また成長して自身が子の親となって初めて一家の家計を農業ひとつで黙々と支えていた父の愛情のこぼれを感じるにいたりました。そして人として成長させてもらいました。

さて児童養護施設では、職員が養育者となって子どもたちの日々の生活を支えています。当然ですが職員には休みが必要ですのでチームとして養育を担います。そんなチーム養育の日常生活で子どもたちがどのように「愛情のこぼれ」を感じてもらうかが大きな課題です。特に政府が進める「働き方改革」の流れの中では、１人の職員の子どもに関わる時間が短くなっていくことは避けられません。私は子どもたちが職員から「愛情のこぼれ」を感じる鍵となるものは、個別性と誠実さ（真剣さ）だと思います。関わる時間には限りがありますが、真剣に個々の子どものことを心配してあげること、真剣に褒めてあげること、真剣に関わってあげることだと思います。その真剣さの中で厳しい対応を取る事もあるでしょう。感謝もされず無視され、時には反発されたり暴言を吐かれたりすることもあります。でも誠実さを失ってはいけません。ある施設の職員は、１人の子との個別の時間が取れない状況の中で、その子と約束して毎日決まった時間にお互いが心の中で会話をする事にして、関係を深めたそうです。様々な制限がある中で誠実に対応すれば子どもが愛情のこぼれを感じられるというよい例だと思います。子どもたちはさんあいにいる間には〝愛情のこぼれ“をキャッチできないかもしれません。でも成長して、いつの日か〝自分はここで大切にされていた“と思い返す時が来るかもしれません。いえ、必ずくることを信じて１日１日、１人１人に誠実に関わりたいと思います。

---

皆様、改めまして新年明けましておめでとうございます。コロナ、戦争、物価高、これから先に何が起こるのか不安になります。しかし、三愛学園創設の理念を忘れず、神様に甘え、子どもたちと職員を大切にし、生活を大切にして歩んでまいりたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

# 2022 年　さんあいクリスマス

## カフェさんあい

クリスマスツリー点灯式に先立ち、カフェさんあいを開催しました。今年はウクライナの戦争で国内や隣国に逃れた家族のドキュメンタリー映像を見て、クリスマスの意味と献金の送り先についてお話しを聞きました。

## クリスマス・ツリー点灯式

３年目になるコロナ禍、ウクライナ戦争、物価高騰等々、先の見えない闇の中にいるような思いにすらなる昨今。そのような闇の中にも輝く光があることを覚えるクリスマスを象徴して、今年も皆でクリスマス・ツリーの点灯式を行いました。夜空には月も輝く中、子どもたちの歓声が響きました。

# 2022 San-ai Christmas

## クリスマス会

昨年はコロナ禍のため外部の方々のご招待は控えたものの、交流ホールで全児童・職員参加でのクリスマス会を行うことができました。今年は数名の方々をご招待できましたが、直前にコロナの陽性者が出たために１つのホームだけは居室で参加し、他は全員集まって祝うことができました。

第１部の礼拝では、イエス様が貧しい人、病人、悲しんでいる人のためにお生まれになったのを記念するのがクリスマスということを思い起こし、貧困、戦争、病気に苦しむ人を覚えて祈りました。そしてクランツに火が灯され、ウクライナの子どもたちのために献金が捧げられました。第２部の祝会は、事務所職員を中心に用意したオードブルや、いただきもののケーキなどをおいしくいただきながら、子ども達や職員の歌や踊り、バルーンアートやクイズなど出し物を楽しみました。

# 新年の抱負　～書初めで今年の漢字一文字～

## ◇女の子ブロック◇

いちょう

■いちょう

去年はコロナでの行動規制も多少緩くなり、学校行事のお泊まりやお部屋のみんなで色々な場所へお出かけもできました。今まで制限されていた分、子ども達も本当に嬉しそうでした。今年も心も体も健康に過ごして、去年以上に色々なことを子ども達と一緒に楽しみたいと思います。また今年、卒園する児童もいるので、離れた場所でも健康に気を付けながら生活して欲しいと思います。

■ぽぷら

今年の新年の抱負は「何事にも挑戦する！」の「挑」です。これから起こるであろう困難な物事に立ち向かえる力を身に付けるためにも、子どもたちがやりたい事にはできる限り挑戦できる機会を作っていきたいと思います。ポプラには、今年さんあいを卒園する児童がいます。社会に出て様々な壁を乗り越えなければなりません。今までにない挑戦になります。私たち職員も全力で応援していきたいと思います。

ぽぷら

ねむのき

■ねむのき

ねむのきのみんなが毎日、笑いが絶えずに楽しく過ごすことができているのは、個性豊かな子どもたちのおかげです。些細なことでの喧嘩も多いですが、それ以上に沢山の笑顔と優しさを見せてくれます。新年も子どもたち一人ひとりの個性を大切にしながら、去年以上に沢山の笑顔と成長を見られる一年にしていきたいです。

## ◇一時保護所◇

■女の子オリーブ

言葉遣いが乱れがちな子ども達、一時保護されるまでの背景を考えたらば仕方のないことですが、別の言い方があること、同じ言葉でも使い方によって、印象が変わることを伝えていきたいと思います。また、大人が積極的にプラスな言葉をつかい、「ありがとう」と感謝しあえる居室作りを目指します。

女の子オリーブ

## ◇男の子ブロック◇

ひのき

■ひのき

ひのきの新年の抱負の漢字は、子どもから「思いやり」と出てきたので「思」になりました。来年どんな一年にしたいかなと聞くと、「優しくする」や「協力する」といった言葉もあり、自分一人ではなく相手を思う表現をしてくれたことが嬉しかったです。「思」は色んな意味が込められています。周りが見えなくなることが多いひのきの子たちですが、相手を思って動いてくれることもあるので、その良い所を伸ばしていくことを目指し「思」にしました。

■かしのき

中身が十分に備わっているという意味もある“実”という漢字を、抱負として選びました。自分の良さを忘れず、自分の気持ちに正直に、中身のある人間になってもらいたいという気持ちを込めています。それぞれ良いところは沢山あるのに自分に自信のない子が多いかしの木なので、自分の良さに気付き、自分に自信をもって、中身も詰まったかっこ良い男の人に成長してほしいと思います！

かしのき

もみのき

■もみのき

昨年は全体的にチクチク言葉が多くなってしまった年でした。今年は相手を思いやる気持ちを持つこと、自分自身を思いやる気持ちを持って毎日を過ごして欲しいと思っています！また、今年は「思考」。たくさんの事を考え、頭を働かせ、どんなときであっても相手の気持ちを考える事の出来る子どもたちに成長していってほしいという願いを込めています！優しい言葉が溢れるお部屋にしていきたいです！

## ◇一時保護所◇

■男の子オリーブ

男の子の一時保護所が開所してから今年の春で１年を迎えようとしています。様々な児童が入所する中、支援を行なって感じたことは特性や性格的な問題も抱えながらも持っている能力や優しさを充分に発揮できない環境や状況にあり傷付いている子どもが多い事です。今年はそのような子どもたちをなだめて傷をやわらげて施設や家庭に送り出したいと思っています。

男の子オリーブ

## ◇三愛子ひつじ寮◇

子ひつじ寮

■子ひつじ寮

石の上にも３年と言いますが、子ひつじ寮も開所３年目。日々、やりがいを感じながらも、初めてのことに戸惑いながら耐えた３年間でもありました。同時に前に進んでいくための基礎（土台）が固まってきたようにも思います。

今年の目標は、とにかく進むこと。進む先は、利用者によって様々です。どんな方向でもとにかく前向きに、職員・利用者全員が一丸となって共に進んでいきたいと思います。

## 秋を満喫！特別部屋外出！

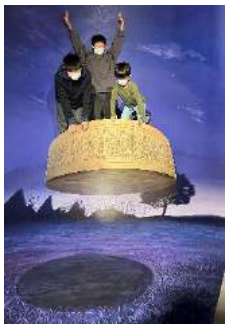
コロナ対応のため、夏休みに特別外出に行けなかった２部屋。10 月にそれぞれ思い出に残る体験をすることができました。

### もみのき

10 月 8 日～9日の週末を使って静岡県の伊豆に出かけました。子どもたちご希望の伊豆テディベア・ミュージアム、沼津深海水族館シーラカンス・ミュージアム、伊豆・三津シーパラダイスをめぐり、サメや深海魚のハンバーガーも食べました。

### ひのき

もみのきが海に出かけた次の週末 10 月 15 日～16 日にひのきは山へ、栃木県の那須に行きました。那須の森の空中アスレチックでは、安全帯やヘルメットを付けて本格的なアスレチックに挑戦。それから那須とりっくあーとぴあで、みんなで不思議体験を楽しみました。



## コラム： 子どもの権利擁護　第４回

「約束を守れないならば、ゲームは禁止です」「言うことがきけないならば、ここにはいられないよ」・・・・体罰はもちろんですが、このような発言を職員が子どもたちにすることは不適切で避けるべきです。子どもの権利条約には様々な種類の権利が記されており、指導と関係がない権利を一方的に制限したり、脅しでコントロールをしたりすることは権利の侵害となる可能性があるからです。生活を共にする中で子どもも職員も良好な関係を築くべく努めていますが、それでも大人である職員は、子どもたちに対して常に優位な立場で指導をする、そこで権利を侵害しうる可能性があることは自覚しておかなければなりません。

万が一、そのような権利侵害を起こしてしまったり、侵害されたと子どもたちが思ったりした場合、すぐその場で当該職員や他の職員に子どもたちが訴えることができることが理想です。しかし、多くの場合は子ども自身がためらったり、すぐに言葉にできなかったりすることが多いのが現状です。

権利侵害とは言わないまでも、様々な生活上の不満を含む苦情を解決する仕組みが児童養護施設にはあります。

各ユニットに掲示されている苦情解決のポスター

さんあいでは、部屋の担当職員に話しにくい、あるいは話したくないことは、施設の苦情受付担当者（現在は事務長）に直接話すか、「ロバの耳ボックス」と呼ばれる各ユニットに設置された意見箱に投書をすることができます。投書は、部屋の担当職員ではなく、苦情受付担当者のみが読み、必要と判断すれば中立的立場にある施設外の第三者委員に介入をしてもらうという流れです。ただ、文字や言葉で思いを上手に表現できない子、暴言や暴力のような形でないと自分を表現できない子もいる中、そのような声なき声を聴く体制づくりはこれからの課題です。

施設長補佐　平本 実

## 幼児グループワーク

幼児グループワークはフィンガーペインティングを行い、クリスマスの飾りを作成ました。フィンガーペインティングとは、筆の代わりに直接手や指に絵具をつけて画用紙などに塗ったりこすりつけたりしながら絵を描くことです。筆のようにきれいに描くということよりも、行為そのものを楽しみながら、精神を発散させ、心を解放させていくことが重要で、このような活動は子ども達にとっても意義があるとされています。色付けでは、絵具を見た途端に手に付けて大胆に色を塗り始める子がいる一方、おそるおそる指に付けて塗っていく子など様々。「みてー！綺麗に塗れたの！」と嬉しがる子が出始めると、「他の色も！」と段々と大胆になり色を混ぜあわせたりと工夫が始まりました。みんなで色付けをした大きなクリスマスツリーも完成。最後は各自色付けをしたものにシールや柄テープでデコレーションをし、個性豊かな作品がたくさんできあがりました。作品はそのまま交流ホールに飾られました。

## 小学生グループワーク

今年、10月31日のハロウィン当日は振替休日でした。そこで小学生グループワークでお化け屋敷を開催しました。段ボールなどを使い約４時間かけてしかけを手作り。井戸や、テレビからお化けが出てきたり、壁の穴から手が出てきたりするといったしかけを小学生全員で一生懸命準備しました。準備では「それいいね！そうしよう！」「手伝うことある？」と１年生から６年生が協力している姿が見られ感動的。しかけが終わると子どもたちは手作りの衣装を身にまとい、メイクをして、それぞれお化けに大変身！本番前に１時間かけてリハーサルもしました。開演すると、招待した職員や幼児、中高生をはりきって脅かします。最初は「驚いてくれるかな！」と緊張しましたが、お客さんの怖がり方を見て、終了後「楽しかった！」「またやりたい！」という言葉があり、思い出に残る１日となりました。

## アニマルクラブ

### わんちゃんとお泊り会

クラブの子ども達からのリクエストにより今回始めてわんちゃん達とのお泊りを開催しました。交流ホールに各自布団を敷いて朝までの長い時間をわんちゃん達と過ごしました。

### 盲導犬体験

盲導犬体験会では、現役で活躍している盲導犬に会うことができ、盲導犬の能力、役割、お仕事などのお話を聞く事ができました。

### 動物愛護フェスティバル参加

動物愛護フェスティバルに行きました。獣医体験や、マイクロチップの読込みなど普段ではなかなかできない事に挑戦させてもらい将来への夢が広がりました。

## 女の子オリーブ

女の子オリーブは現在幼児２名、小学生２名、中学生２名の計６人が在籍しています。日中の勉強を頑張った後は、外では一輪車の練習をしたり、本園児童や男の子オリーブと一緒にドッジボールや鬼ごっこ、リレーをして遊んでいます。居室内ではみんなで歌番組を視聴し、役割を割り振って、それぞれ一生懸命楽しそうにダンスを踊ったり、歌を歌ったりもします。園外にも出かけ、みかん狩りやイルミネーションも見に行き、楽しい思い出を作ることができました。みんなで協力し、毎日楽しく、大笑いしながら過ごしています。　（小暮）

## 自活訓練

高校３年生の女子が自活訓練として２週間、園外のアパートで１人暮らしをしました。普段は食事や洗濯等職員が行っていますが、全て自分で行わなければなりません。IH の使い方が分からず調理ができなかったり、ゴミの分別がわからなかったりと初めは職員も不安でしたが、本人はとてものびのびとした生活を送れたようです。自炊で、炊き込みご飯やピーマンの肉詰めを作ったり、お寿司やラーメンなど外食も楽しんだりしました。アルバイトやテスト期間も重なり寝不足の日々が続いたようですが、最終日には「まだ帰らなくても良いんだけど」と名残惜しそうにするほど充実した生活が送れた様です。　（佐藤）

## 生教育

生教育タスクチームでは、今年度、学期に１回のグループプログラムを行っています。内容については、その時の子どもたちの状況によって、タスクメンバーで検討しています。今回幼児さんのグループプログラムは、保育園へ行く車内の中で口喧嘩が多かったり、外遊びの中で物の取り合いが多く見られたため、「ふわふわ言葉とチクチク言葉」について実施する事にしました。グループで実施する事で、皆で意識できるようになるというメリットがあると思うので、今回みんなで学ぶ事で生活の中でふわふわ言葉が増えていければいいなと思います。　（久保田）

## 療育タスク

療育タスクでは、体のバランス感覚や粗大運動、微細運動を養ってほしい子どもや、言葉や発音が不明瞭だったり、舌や口周りの筋肉の発達が必要な子どものトレーニングを行ったりしています。実施内容はトランポリンやちぎり絵、動物ポーズもの真似などをして体を動かすトレーニングや、長いストローを使って肺活量を鍛えたり、吹きゴマや、笛ラムネ等で口を動かしたり等、さまざま。年度末には療育スポーツ大会も実施します。対象年齢は幼児から小学生までで、年齢や特徴によって難易度を変えて楽しく参加できるよう、職員で話し合ってプログラムを考えています。　（神林）

## 職員１日研修

昨年に続いて、今年も園外の施設を借りて職員の１日研修を行いました。今年は、自立援助ホーム・三愛子ひつじ寮の職員も参加。同じ法人内の施設として共有する理念や養育目標を確認し、対象となる児童や養育環境にどう適用されるべきかを話し合いました。

また、ベテラン職員の経験談を聞く時間もあり、さんあい設立間もない頃から、移転までを写真や図面などを見ながら振り返りました。昔を知らない多くの職員にとっては想像できないような労働環境、子ども達の様子を知ることから、現在の養育、これからのあり方を考えました。その後、ベテラン、中堅、新任職員入り混じってのグループ・ディスカッション。昨年からの１年を振り返りつつ、来年度の計画を考えました。たくさん聴いて、たくさん話して、知恵と力が少し増えたような気持ちで会を終えました。　（平本）

## アフターケア

12 月 10 日に大掃除と合わせて卒園生との食事会を行いました。ここ数年、卒園生に大掃除の参加を呼びかけるのは恒例となっています。人手としての期待はもちろんですが、さんあいに顔を出すきっかけとなってもらえたらと考えています。今年の卒園生の参加は少なかったのですが、食事会には在園児も参加してくれた事で、当時の思い出話をざっくばらんに話す事ができました。社会人としてしっかりしたと感じさせる卒園生の姿をみる一方、在籍当時のような懐かしいやり取りもでき、職員としてアフターケアを行うやりがいを感じた１日となりました。　（髙柳）

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。
ご寄付は同封の振込用紙、又は下記の口座にお願いします。＊お名前をお入れください＊
埼玉りそな銀行　岡部支店　0058888

編集後記

保育園に通う園車の中で、遠くに見える山を見て４才の男の子が言いました。「あの山のてっぺんには雪があるんでしょ？白くなってるもん！」と嬉しそうに聞くため、「雪が降ったんだね、雪、楽しみなの？」と返すと、「うん！だって雪が降ったら雪だるま作りたいんだもん！」とわくわくした表情で答えてくれました。大人は積雪を心配し、積もらないでほしいと考えますが、子ども達には雪が降る事も冬の一大イベントの１つなのだとあらためて思いました。私も幼い頃は、雪が降るのをわくわくした気持ちで待っていた事を思い出しました。　（広報タスク一同）